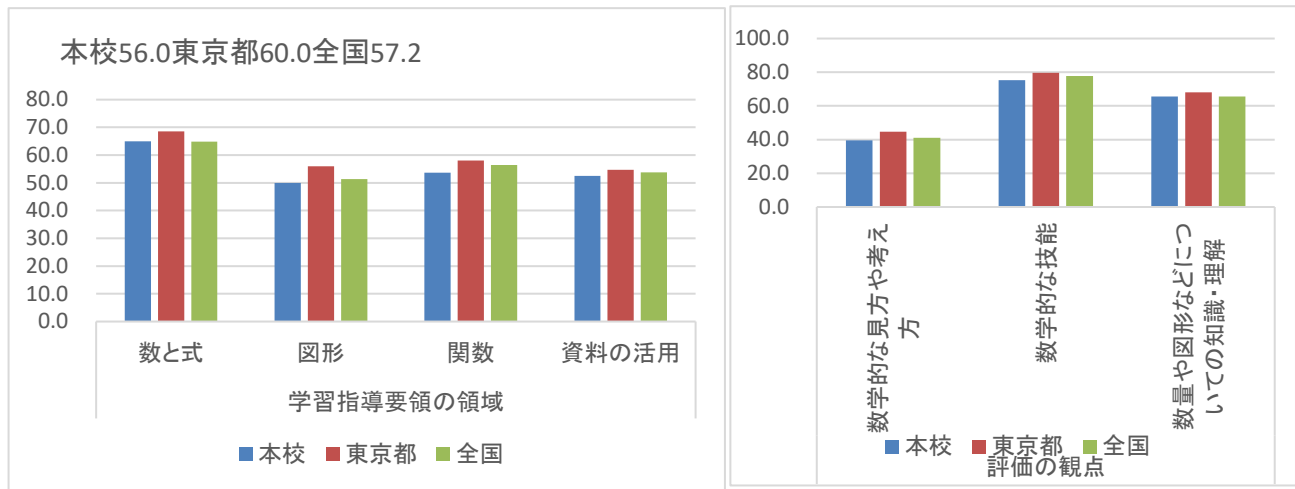


1 全体・観点別平均正答率の分析

(1)全体



都の標準とほぼ差がない部分が多い。しかし、資料の活用や図形問題など、見て考える問題に関しては低い部分が多かった。全体としては東京都の平均より4ポイント下回っている。
授業は意欲的に取り組む生徒が多いが、基本的な計算力や既習事項が十分に定着していないことが考えられる。
既習事項の反復練習が必要である。

(2)見方・考え方

3つの項目の中で一番正答率が低い。「見方・考え方」を苦手とする生徒は多く、毎年の課題である。
文章問題を苦手と感じている生徒が多く、授業において文章問題に触れる場面を意図的に設定し、文章を正確に読み取り既習事項を活用できる力を付けていく。

(3)技能

正答率は7割を超えているが、都の平均と比べると5ポイント近くの差がある。計算練習の小テストなどを実施しているが、苦手な生徒の正答率が極端に低い。補習等で補っていく。

(4)知識・理解

正答率は半分を超えている。数学の観点の中では一番簡単な項目だが、繰り返し学習する機会があまりない内容なので、授業内で確実に理解させるように努める。

2 授業改善案

今回の結果に表れている生徒の「技能」「知識・理解」の高さを大切にしつつ、もう少し正答率を上げていきたい。

- ①「技能」の正答率を高めるために演習問題を今まで以上に取り入れて基本的な計算力の定着と学習内容の理解を深める授業展開をしていく。
- ②「知識・理解」を高めるために授業の中で習った単語や公式をまとめ、振り返りがしやすいようにプリントやノート作成を意識させる。
- ③「見方・考え方」を高めるために、自分で考える時間を授業内に増やす。また、自分の考えを発表する時間を増やすことで自分の意見をもたせる。